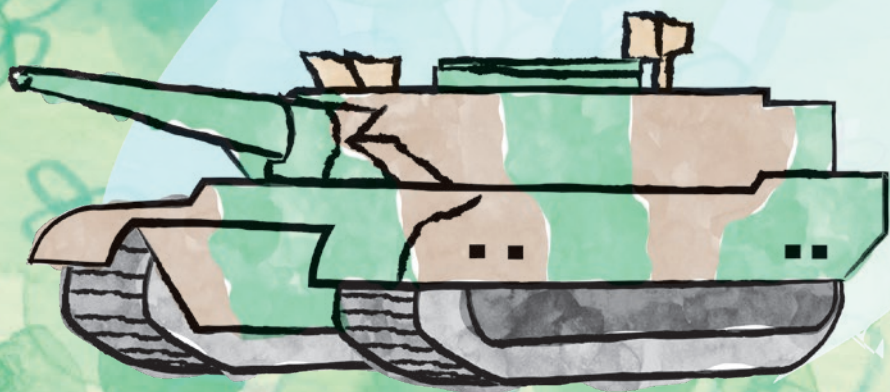


# はじめての 防衛白書



～まるわかり! 日本の防衛～



# 目次



1 国の防衛はなぜ必要なの？	2
2 日本の周りの安全保障環境	
(1) インド太平洋地域	3
(2) 中国	4
(3) 朝鮮半島	7
(4) ロシア	8
3 憲法と自衛隊の関係	9
4 日本の防衛の基本政策	10
5 国を守るために必要なお金 —防衛関係費—	11
6 日本を防衛するための自衛隊自身の取組	13
7 宇宙・サイバー・電磁波領域での挑戦	17
8 大規模災害への対処	19
9 日本と地域、そして世界の平和を守るための日米同盟	21
10 自由で開かれたインド太平洋	23
働く自衛官の声	25

## 「はじめての防衛白書」について

「はじめての防衛白書」は、防衛省が毎年作っている防衛白書の内容を小学校高学年以上のおみなさんにもわかりやすく説明することを目的として作成しました。

日本の周りの安全保障環境や防衛省・自衛隊の取組についてできる限りわかりやすい言葉を使って説明していますが、難しい単語や表現が出てきて理解できない時は、辞書やインターネットを使って調べたり、周りの大人の人に聞いたりしてみてください。

また、「はじめての防衛白書」の内容ではもの足りない！ もっと詳しい内容が知りたい！ というみなさんはぜひ、防衛白書を読んでみてください。

防衛白書はこちら→



※「はじめての防衛白書」の中で掲載している図表やグラフは、わかりやすくするために一部省略・簡略化したり、細かい注意書きを掲載していないものもあります。より詳しい内容を知りたい場合は、防衛白書を確認してください。

## 1

## 国の防衛はなぜ必要なの？



みなさんは自衛隊が何をするための組織であるか知っていますか。

**自衛隊の一番大事な、そして自衛隊にしか果たすことができない任務はわたしたちの国、日本を防衛することです。**

政治や経済、社会のあり方を、他の誰かに強制されるのではなく、わたしたち自身で決めていくためには、わたしたちの国の独立を守らなければなりません。また、平和と安全はわたしたちが安心して生活し、**繁栄**を続けていく上でなくてはならないものです。

こうした国の独立や平和そして安全は、残念ながら願うばかりで実現できるものではありません。

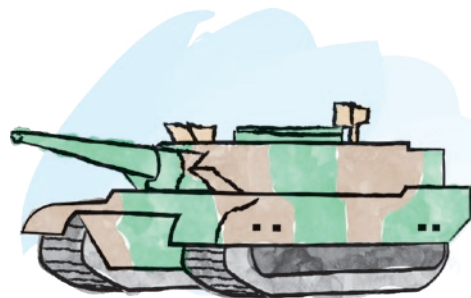
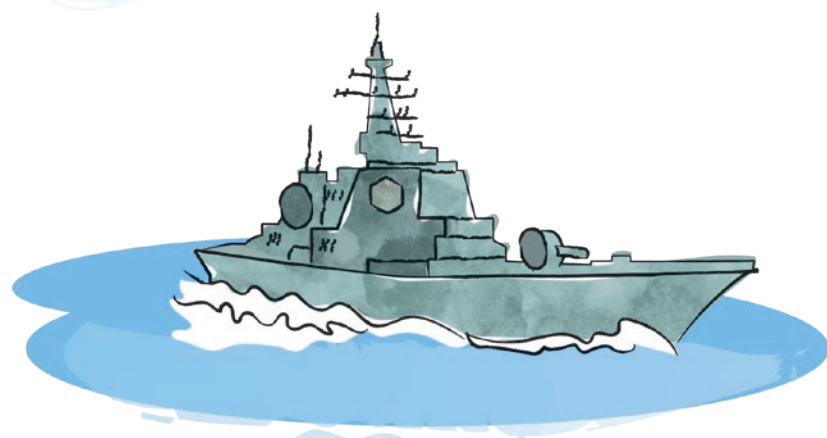
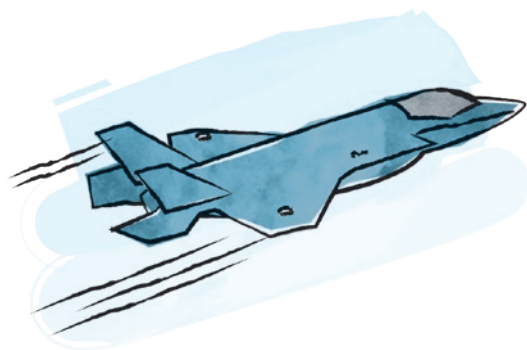
例えば、みなさんが強盗にあったり、暴力をふるわれ

たりした時、警察を呼ばばすぐに助けがきて、犯人を逮捕してくれると思います。しかし、国際社会では、他の国に何かを奪われたり、攻撃をされたりしたとしても、警察のように頼れる存在はないのです。

話し合いや協力といった手段により、平和や安全が脅かされるような状況になることを未然に防ぐことはもちろん重要です。しかし、**国を確実に守るためには、日本がきちんと自分たちの国を守る意思と能力があることを周りに示し、日本から何かを奪うのは難しいと他の国に思わせることが必要**です。さらに、**それでも他の国に攻め込まれるような場合には、確実に対処できるようにしておくことが必要**なのです。

自衛隊が多くのお金と労力をかけて、どのような状況にも対処できる力を常に維持しているのは、他の国と戦争をした

いからではありません。自衛隊が**万全**の態勢を整えているということを示すことで、他の国に「日本とは戦争をしたくない」と思わせ、戦争が起きないようにすることが自衛隊にとっての一番の勝利なのです。このように他の国に対し、日本を攻めることを思いとどまらせる力を「抑止力」といいます。



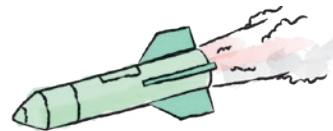


## (1) インド太平洋地域

みなさんの中で、学校で勉強している時、街中を歩いている時、家でくつろいでいる時に、いつもミサイルや爆弾のことを心配しながら暮らしている人はいるでしょうか。

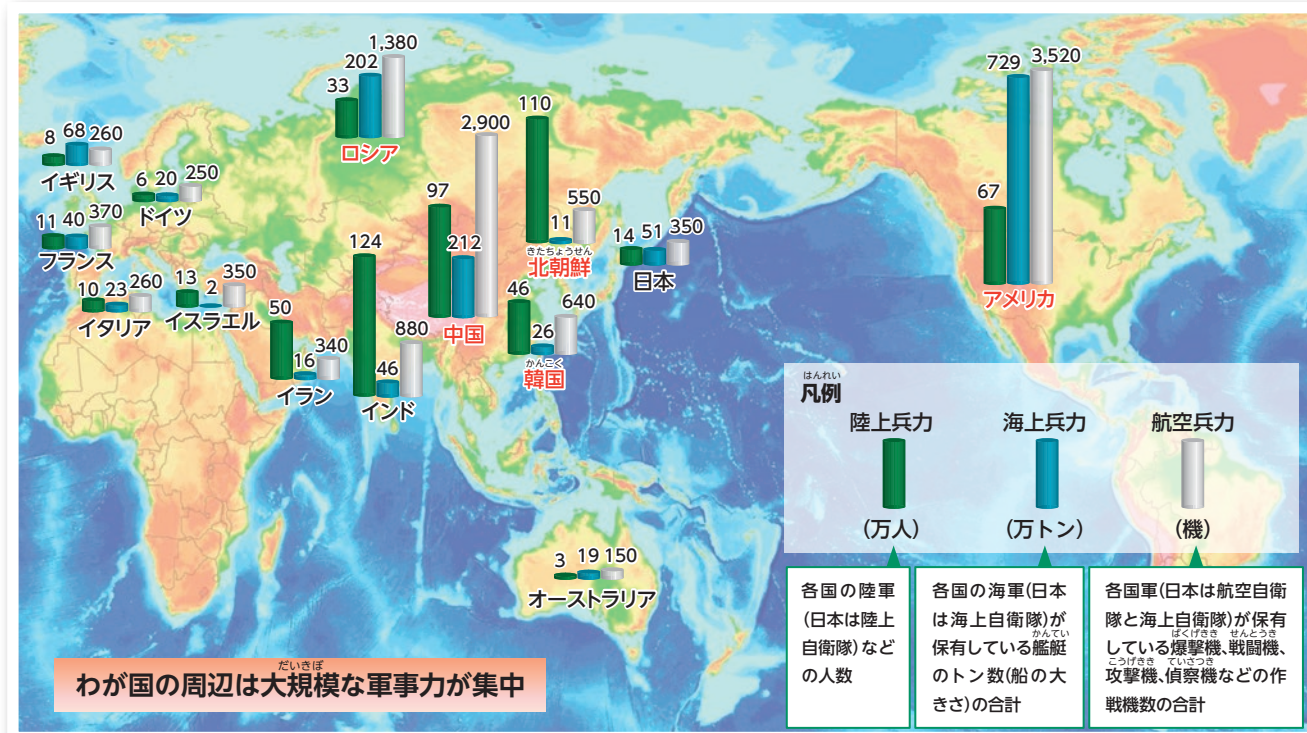
世界の中には子どもたちが常にミサイルや爆弾の危険にさらされている地域が未だに多く存在しています。しかし、日本に住んでいるみなさんの中で、ニュースで北朝鮮のミサイルについて見たことはあっても、こうした恐怖を現実を経験した人はほとんどいないのではないのでしょうか。

そんなみなさんが暮らしている日本の周りの安全保障環境について考えてみましょう。



日本の周りには、世界の中でも大きな軍力を持っている国が集まっているだけでなく、これらの国々は軍力をさらに強化したり、軍事活動を活発化させたりしています。したがって、国の防衛は日本にとって、とても大切です。

### わが国周辺の安全保障環境等



また、日本が位置するインド太平洋地域の国々の中には、わたしたちが大事にしている自由や民主主義といった価値観を必ずしも共有していない国があるだけでなく、経済の発展の度合いなども様々です。

このような違いがある国々の間で、自分たちの国にとっての脅威が何なのか、またどのようにしてその脅威から国を守っていくのかを共有し、各国で協力していくための枠組みを作ることには簡単ではありません。また、この地域の中には、ある土地がどの国のものなのかをめぐって争っている領土問題や、朝鮮半島のように一つの民族が二つに分断され、互いに軍事的に対立している場所もあります。



## (2)中国

中国の軍隊の動きなどは、日本を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念となっています。

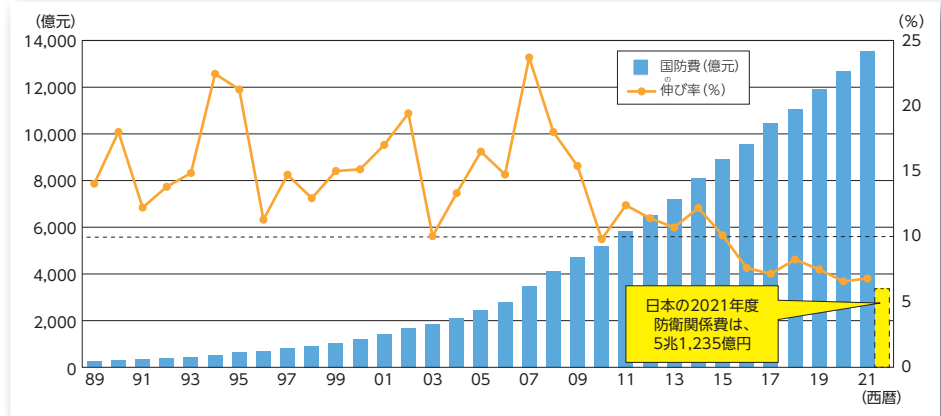
地域や世界の課題に対して、中国がより協調的な形で積極的な役割を果たすことが期待されています。

### 中国の軍事力

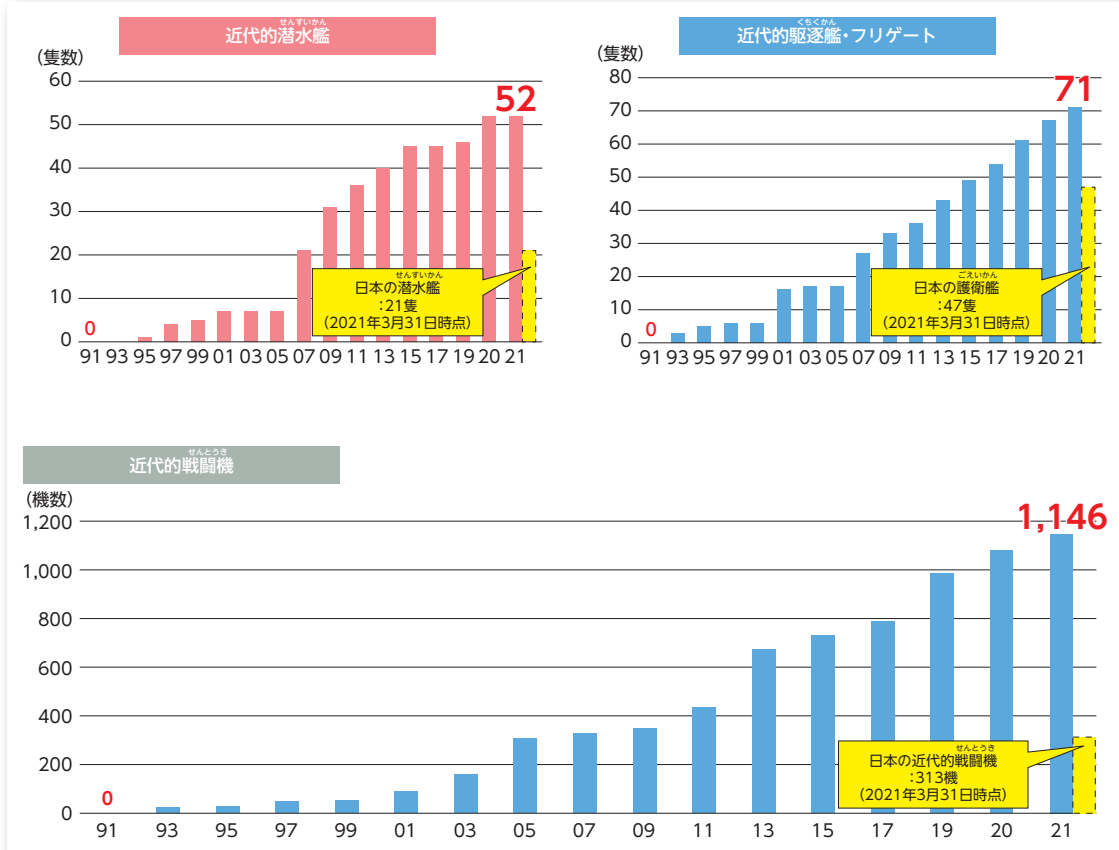
中国は近年、詳しい説明をしないまま、とても速いペースで軍隊にけるお金、国防費を増やしています。

こうしたお金を使い、中国は核兵器やミサイル、軍の艦艇や航空機といった軍事力を急速に強化しています。

🚗 中国が公表している国防予算の推移



🚗 中国の主な海上・航空戦力



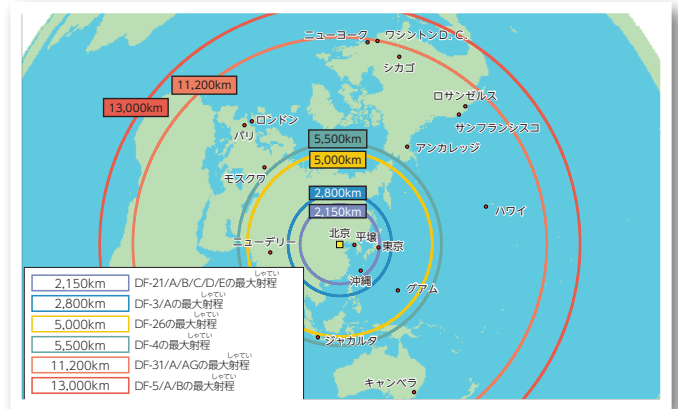


## 中国のミサイル戦力

中国は様々な種類のミサイルを数多く保有しています。こうしたミサイルの中には、核兵器を搭載することができるものもあります。

右の図は、中国が保有しているミサイルの射程(届く距離)を地図に示したものです。日本はもちろんのこと、アメリカやヨーロッパまで届くことがわかります。

中国(北京)を中心とする中国が保有している弾道ミサイルの射程(イメージ)



## 日本の周辺の海や空での活動

中国は近年、日本の周辺の海や空での活動を拡大・活発化させています。

### 中国軍の航空機の活動

中国軍の戦闘機や爆撃機は毎日のように日本の近くまで飛んできており、これに対して、日本の領空に侵入されないよう、航空自衛隊の戦闘機が緊急発進を行って対応しています。中国の航空機に対しては、一番多かった2016年度には851回、また、昨年度も458回も緊急発進をしました。

→ 参考: 外国の航空機や潜水艦などへの対処(14ページ)

### 尖閣諸島周辺での船舶・航空機の活動

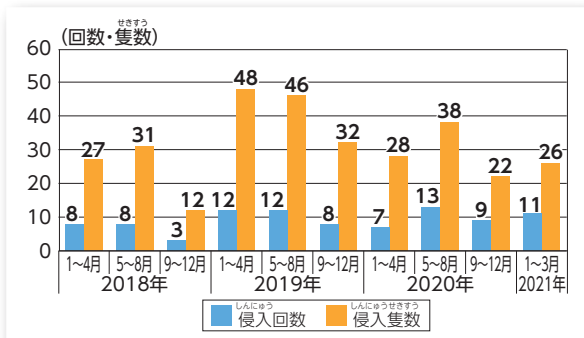
中国政府の船舶は日本の固有の領土である尖閣諸島周辺にほぼ毎日やってきており、日本の領海への侵入も繰り返して行っています。尖閣諸島周辺の日本の領海で独自の主張をする中国政府の船舶の活動は国際法に違反しています。

こうした船舶には機関砲のような武器を搭載しているものもあり、また、日本の漁船に近づく事案も発生しています。



中国政府の船舶(奥)を警戒監視する日本の海上保安庁の巡視船(手前)【海上保安庁】

### 中国海警局に所属する船舶などの尖閣諸島周辺の領海への侵入回数・隻数



### 接続水域における確認状況

年	確認日数(日)	延べ確認隻数(隻)
2012	79	407
2013	232	819
2014	243	729
2015	240	709
2016	211	752
2017	171	696
2018	158	607
2019	282	1,097
2020	333	1,161
2021	81	300

※ 2012年は9月以降、2021年は3月末時点

### わが国周辺海域における最近の中国軍の主な活動(イメージ)



中国軍の艦艇や航空機は、東シナ海や日本海、太平洋での活動を活発化させており、沖縄本島・宮古島の間や対馬海峡、宗谷・津軽海峡なども頻繁に通過しています。

### 南シナ海での活動

中国は、東南アジアの国々との間で、南シナ海にある南沙(スプラトリー)諸島や西沙(パラセル)諸島の領有権(ある土地がどの国のものなのか)について争っていますが、そうした争いが解決しないまま国際的なルールに基づかず埋め立てや軍事施設の整備などを強行しています。

南シナ海における紛争の平和的な解決を目指し、フィリピンは、中国を国際的な仲裁裁判(国と国との争いについての裁判)所に訴えました。2016年に裁判所による判断が下されたにもかかわらず、中国はこれを無視し続けています。

また、南シナ海では中国軍の戦闘機や艦艇がアメリカ軍の航空機や艦艇に近づいて妨害したとされる事案や、ミサイルの発射実験を行ったとされる事案なども見られます。

日本としては、このように中国が、国際的なルールに基づかず一方的な行動を続けていることに強く反対しており、国際社会からも同様の懸念が示されています。



### ちようせん (3) 朝鮮半島

きたちようせん かく みと  
北朝鮮は核保有などを認められていないにもかかわらず、かくへいき だんどう  
核兵器や弾道ミサイルの開発を続けてきて  
おり、今では、だんどう かくへいき ころげき  
弾道ミサイルに核兵器をのせて日本を攻撃する能力を持っているとみられます。こうした  
きたちようせん  
北朝鮮の軍の動きは、重大に、かつ、差しせま  
迫って、日本の安全をおびや  
かすものになっています。

### きたちようせん 北朝鮮の政治体制

きたちようせん きむじょんうん けんりよく  
北朝鮮では、金正恩委員長がとても大きな権力を持ってい  
ます。周りの幹部は金正恩委員長に他の国との関係などに関  
する意見を言うことが難しくなっているとも言われており、  
きたちようせん ちようはつ  
北朝鮮が軍事挑発的な行動に走る可能性など、今後の動き  
を予想することは簡単なことではありません。



ちようせん とう エーエフビー  
朝鮮労働党第8回大会【AFP=時事】

### きたちようせん かくへいき だんどう 北朝鮮の核兵器・弾道ミサイル

きたちようせん かく みと  
北朝鮮の核保有は認められていません。北朝鮮に対しては、国連の安全保障理事会  
が、これまで何度もすべての核兵器や弾道ミサイルをなくすよう、求めてきました。  
きたちようせん かくじっけん じっし  
しかし北朝鮮は、これまで6回の核実験を実施したほか、近年、だんどう  
立て続けに弾道ミ  
はっしや かくへいき だんどう お  
サイルの発射を繰り返しており、核兵器や弾道ミサイルの開発を推し進めるとともに、  
これらを使うための能力を向上させてきています。

今では、きたちようせん とど だんどう  
北朝鮮は日本にも届く弾道ミサイルを数百発持ってお  
り、これらのミサイルに かくへいき  
核兵器をのせて日本をころげき  
攻撃する能力を  
持っていると考えられています。

きたちようせん とど さまざま だんどう  
北朝鮮は、日本にも届く様々な種類の弾道ミサイルを持って  
おり、その中にははっしやだい  
付いた車両にのせることができるだんどう  
弾道ミサイルや、せんすいかん へっしや だんどう  
潜水艦から発射する弾道ミサイルもあります。こう  
したミサイルは、地上に固定されたはっしやだい へっしや  
発射台から発射するミサイル  
と比べ、いつ・どこから撃つのかを事前に知ることが困難です。



エスエルビーエム エーエフビー  
【北極星】3型SLBM【AFP=時事】



イーアール エーエフビー  
スカッドER【AFP=時事】

### きたちようせん 北朝鮮のこれからの動き

きたちようせん とうたいかい  
北朝鮮は、2021年1月に「党大会」という大きな会議を開き、これからもかくへいき  
核兵器を  
ふく いろいろ  
含め、新しい兵器を色々としていき、軍の力を強くしていき、と言っています。

さらに、2020年10月と2021年1月にはいろいろ  
様々な兵器が登場するパレードを行い、  
2021年3月には実際に、新しいだんどう へっしや  
弾道ミサイルを発射しました。

きたちようせん  
防衛省は、これからも北朝鮮の動きをしっかり見張っていきます。



だんどう  
新型弾道ミサイル  
エーエフビー  
【AFP=時事】





## (4) ロシア

ロシアは、核戦力を含め、軍の装備を新しいものにしたたり、軍の活動を活発化させたりしており、今後の動きを注意深く見ていく必要があります。

また、日本の固有の領土である北方領土にロシア軍を駐留させており、その活動を活発化させています。

### ロシアの核戦力

ロシアは、核兵器をのせることができる大陸間弾道ミサイル(他の大陸を攻撃できるくらい射程の長いミサイル)や潜水艦から発射する弾道ミサイル、長距離爆撃機(とても長い距離を飛ぶことができる爆撃機)

を、アメリカと同じくらい数多く保有しています。

核兵器と核兵器をのせることができるミサイルや爆撃機などの兵器をあわせて、核戦力と呼びます。

ロシアはこうした核戦力について、さらに新しい装備を開発したり、導入したりする動きを進めています。



新型弾道ミサイル(戦略)原子力潜水艦  
【AFP=時事】



新型の大型ICBM「サルマト」  
【ロシア国防省】

### 日本の周辺や北方領土でのロシア軍の活動

ロシアは近年、日本周辺での活動や、日本固有の領土である北方領土での活動を活発化させています。

#### ロシア軍の航空機の活動

ロシア軍の長距離爆撃機は日本の周辺で活発に飛行しており、空を飛びながら燃料を補給できる空中給油機や、戦闘機などと共に飛行することもあります。ロシアの長距離爆撃機が日本列島の周りを周回飛行したり、日本の領空に侵入することもあります。

#### 北方領土での活動

ロシア軍は北方領土に戦車や対空ミサイルなどを含む地上軍部隊を駐留させており、近年軍事施設の整備も進めています。また、北方領土やその周辺では大規模な軍事演習も継続して行っています。

### ロシア軍と中国軍の連携

ロシアと中国は、政治的な考え方の違いや国境紛争のために長い間仲が悪い状態が続いていましたが、近年、軍事分野も含め、両国の協力関係が進展しています。

ロシアは中国に対し、新型の戦闘機など最新の兵器を輸出しているほか、海軍同士の共同演習をほぼ毎年実施しており、その内容も年々ハイレベルになっています。また、2019年と2020年にはロシアと中国の爆撃機が、日本海から東シナ海にかけて、長距離にわたり編隊を組んで一緒に空を飛ぶ共同飛行を実施しました。こうしたロシアと中国の協力により、中国軍の能力が向上するという懸念があります。



# 3

## けんぽう 憲法と自衛隊の関係



日本は第二次世界大戦の後、再び戦争によるいたましい被害を繰り返すことがないように、平和国家を目指して努力を重ねています。この平和主義の理想をかかげる日本国憲法のもと、わが国の平和と安全を守り、国の安全を保つため、自衛隊を保持・整備・運用しています。

### けんぽう 憲法第9条と自衛隊の関係

日本国憲法は、第9条に戦争放棄、戦力不保持、交戦権を認めないことが定められていますが、これは、国として当然に保有している自衛権(外部からの攻撃があった場合に、自分の国を守る権利)を否定するものではありません。したがって、外国が武力を用いて日本を攻撃してきた場合に、国を守るための必要最小限度の防衛力として自衛隊を持つことは、憲法第9条のもとでも認められています。

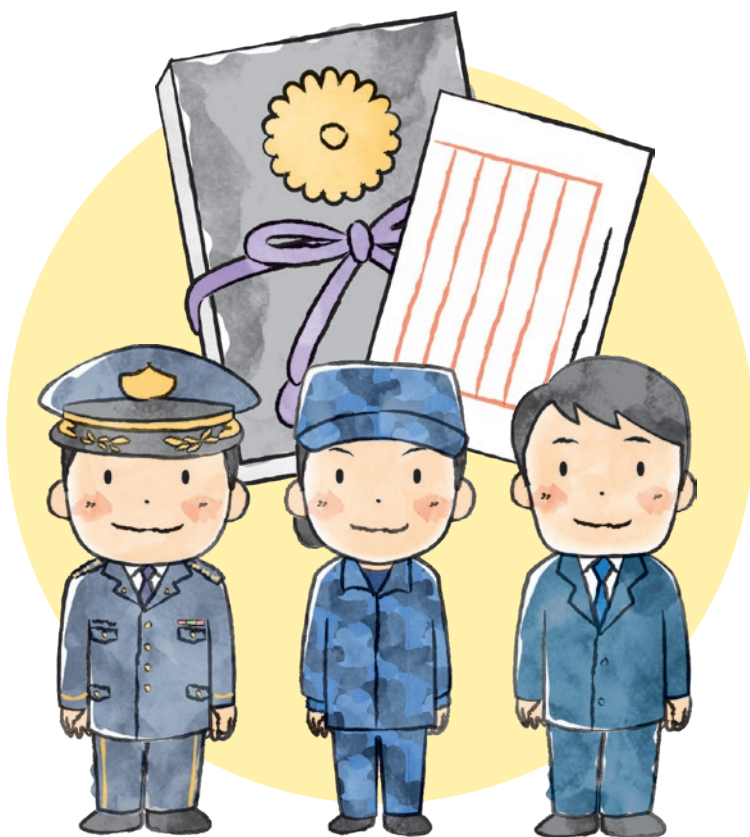
#### にっぽんこくけんぽう 日本国憲法

#### 第9条

- 1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- 2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

自衛隊の持つ防衛力を実際に用いることについて、憲法第9条はその文言からすると、国と国との関係における「武力の行使」をすべて禁止しているように見えます。しかし、外国が武力を用いて日本を攻撃してきた場合や、他国に対する攻撃によりわが国の存立が脅かされ、国民の生命・自由・幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある場合に、自衛隊が国を守るために武力を行使することが認められています。

ただし、このような場合でも、他に適当な手段がなく、必要最小限度の実力行使であることが求められます。相手国の領土の占領などは、自衛のための必要最小限度を超えるものと考えられるので、認められません。



# 4

# 日本の防衛の基本政策



これまで日本は日本国憲法のもと、専守防衛を貫き、他の国を脅かすような軍事大国とならないとの基本的な考えで、国の防衛に取り組んできました。ここでは、国の防衛を考える上での前提となる、日本の防衛の基本政策について見ていきましょう。

## 専守防衛

専守防衛とは、外国から武力による攻撃を受けた時にはじめて防衛力を用い、その場合であっても、**日本を守るために必要最小限のものにとどめる**など、憲法の精神に則った受動的な防衛戦略の姿勢のことをいいます。



## 軍事大国とならないこと

日本が他の国に脅威を与えるような軍事大国とならないように、日本は、国を守るための必要最小限を上回り、**他の国を脅かすような強大な軍事力を保持することはありません。**

## 非核三原則

非核三原則とは、核兵器を持たず、作らず、持ち込ませずという原則を指し、日本はこれをかたく守っています。



## 文民統制の確保

文民統制はシビリアン・コントロールともいい、**民主主義の国において国民の代表である政治が軍事力を統制**することを指します。

日本の場合、第二次世界大戦における終戦までの経緯において、軍に関する内容について、行政をつかさどる内閣の統制が及ばない範囲が広がってしまったという反省もあり、現在は旧憲法下の体制とは大きく異なり、自衛隊が国民の意思によって整備・運用されることを確保するために、厳格な文民統制の制度を採用しています。

具体的には、**国会、内閣、防衛省という三つのレベルで政治による統制がはたらく仕組み**を設けています。まず、国民を代表する国会が、自衛官の人数、主な組織などを法律・予算の形で決定するなどの権限を持っています。

次に、現憲法下では国の防衛に関する仕事は完全に内閣の権限の中にあり、その内閣の一員である内閣総理大臣や防衛大臣は、憲法において文民（現役の自衛官は「文民」ではありません）でなければならないこととされています。

防衛省においても、政治によって選ばれる防衛大臣がトップとして自衛隊を管理・運営し、防衛副大臣、防衛大臣政務官などが防衛大臣を助ける体制をとっています。

以上のように、文民統制の制度を整備していますが、それがきちんと機能するためには、みなさんにも国の防衛に対して関心を持っていただくとともに、わたしたち行政や政治が日々努力していくことが大切だと考えています。



# 5

## 国を守るために必要なお金 —防衛関係費—



国を守る組織である自衛隊がその能力を発揮するためには、日々、自衛隊員になりたい人が増えるよう努力したり、装備品(戦車、護衛艦や戦闘機)を整備したり、きちんと教育・訓練をする必要があります。このような取組を、「防衛力整備」といいます。「防衛力整備」のために必要となるお金を「防衛関係費」といい、毎年必要なお金(=予算)を確保し使っています。

### 防衛力整備はどのようにして考えるの？

自衛隊が国を守るために使う装備品を手に入れたり、自衛隊がしっかり活躍するためには、膨大な時間がかかります。そのためにも、きちんと目標と計画を決めて、達成のために必要なお金の使い方を毎年考えていきます。

#### 毎年の防衛関係費ができるまで

##### ① 将来(おおむね10年程度)の戦略や防衛力の目標を決める

**国家安全保障戦略** 外交政策及び防衛政策を中心とした国家安全保障の基本方針

**防衛計画の大綱** 防衛力のあり方と保有すべき防衛力の水準を規定

##### ② 5年間の国の防衛に必要な金額や整備する主な装備品の内容を決める

**中期防衛力整備計画** 5年間で必要なお金の総額と主な装備品の整備数量を示す

##### ③ 毎年の国の防衛に関する予算を決める

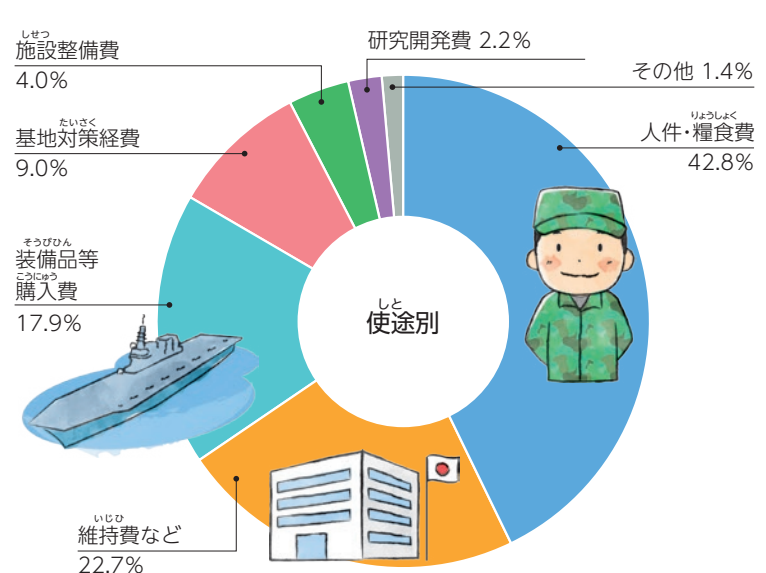
**年度予算** 情勢を踏まえて、各年度毎に必要な経費を予算として計上

### お金は何に使われている？

今年度の防衛力整備に必要なお金(防衛関係費)は約5兆円(国の予算全体は約107兆円(令和3年度))になります。

その内訳としては、**約4割が自衛隊員の給料や食事などのお金、約2割が燃料の購入や施設の維持管理などに必要なお金、約2割が新しい装備品等を購入するためのお金**となります。

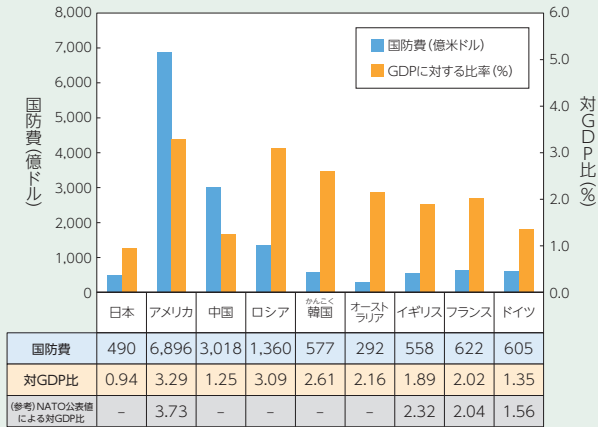
#### 防衛関係費(当初予算)の内訳(令和3(2021)年度)





## 外国の国防予算

### 主要国の国防費(2020年度)



他の国でも国防のために多くの予算が使われています。世界の状況が変化の中で、必要な予算を確保し、防衛力整備を進めていくことが必要です。

各国ごとに予算の制度が違うので、国防にかけているお金が多いか少ないかを正確に比較することは困難です。その上で、日本の防衛関係費と各国が公表している国防費をアメリカの通貨ドルに換算すると、左のグラフのとおりとなります。

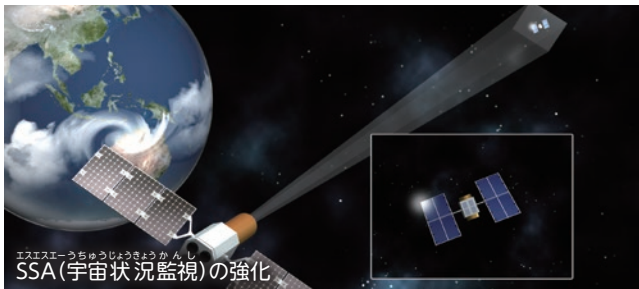
日本は、G7の国々やオーストラリア、韓国と比べても、国防費の対GDP比(国防費をGDP(Gross Domestic Product: 国内総生産)で割った比率)が一番低いです。

## 防衛省・自衛隊の取組

陸・海・空という従来の考え方から抜け出し、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域を含む、すべての領域を横断的に連携させ、それぞれの領域における能力をうまく組み合わせて、全体として発揮できる能力を大きくするための新たな防衛力(多次元統合防衛力)の構築を目指し、予算を使って様々な取組を進めています。



### 宇宙・サイバー・電磁波などの領域における能力の獲得



### 従来の領域における能力の強化



# 6

## 日本を防衛するための 自衛隊自身の取組



日本を防衛するための手段には①日本自身の防衛力を強化すること、②日本とアメリカの同盟関係を強化すること、③各国との協力関係を強化することの三つが挙げられます。ここではまず、日本自身の防衛力を強化するための自衛隊の取組について見てみましょう。



### 普段からの情報収集・警戒監視

日本は四方を海に囲まれ、6,800あまりもの島々や広大な排他的経済水域（水産資源や鉱物資源の権利がある水域）を有しています。日本の領海と排他的経済水域の面積は世界で第6位もの広さがあります。

#### わが国周辺海空域での警戒監視のイメージ



この広大な海域でどのような事態が起きても対応できるよう、自衛隊は普段から日本の領海・領空とその周辺の海空域で情報収集や警戒監視を行っています。

具体的には、海上自衛隊と航空自衛隊が、航空機やレーダーサイトなどにより、日本周辺の海域での船舶の状況や、日本とその周辺の上空の状況を24時間態勢で見張っています。

また、主要な海峡では、陸上自衛隊の沿岸監視隊や海上自衛隊の警備所などが同じく24時間態勢で見張っています。

このような情報収集・警戒監視で得られた情報は、海上保安庁などの関係省庁にも共有し、連携を強化しています。

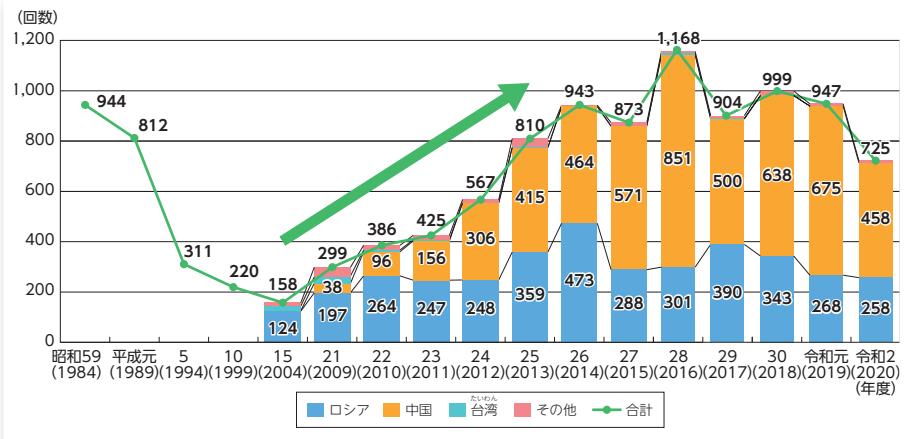




## 外国の航空機や潜水艦などへの対処

警戒監視により、日本の領空に侵入するおそれのある航空機を発見した場合には、航空自衛隊は戦闘機などを緊急発進(スクランブル)させ、その航空機の状況を確認し、行動を監視します。さらに、航空機が実際に領空に侵入した場合には、退去するよう警告を行います。2020年には航空自衛隊は1年間で725回もこの緊急発進を行いました。右のグラフのように、対応した航空機は中国とロシアのものが大半を占めています。

緊急発進の実施回数とその内訳



また、潜水艦が海の中に潜ったまま外国の領水(領海と内水(=湾や河川など、領海より内側の水域)の)内を航行することは国際法で認められていません。日本の領水内にこのような潜水艦がいた場合、海上自衛隊の艦艇などが探知・識別・追尾といった対処を行います。北朝鮮の工作船など、武装工作船と疑われる不審な船に対しては、基本的には海上保安庁が対処します。しかし、海上保安庁では対処できない場合や対処が困難な場合には、自衛隊も海上保安庁と連携して対処を行います。



### コラム 航空機はどうやって見分けるの？

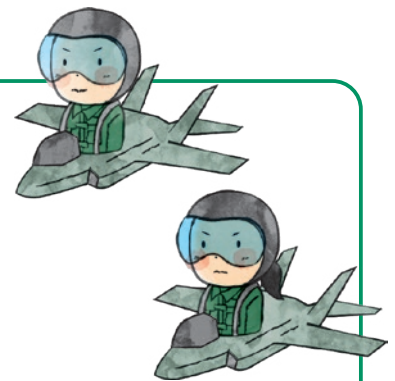
みなさんの中にも旅行などの目的で飛行機に乗ったことがある人は、たくさんいると思います。じつは、空にも「航空路」という道路のようなものがあり、飛行機は「いつ、どの航空路を、どのように飛んで目的地に向かいます。」という「飛行計画(フライトプラン)」に従って飛行しています。

航空自衛隊は日本全国に防空レーダーを設置し、24時間365日一時も休むことなく、



日本周辺や日本の上空を監視しています。そして、それぞれの飛行機が、どこをどのように飛んでいるのか、予定されていた飛行計画と一つずつ照らし合わせて見分けています。

上空を監視していると、飛行計画が提出されていない飛行機が飛んでいる場合があります。飛行計画がないため、どこをどのように飛ぶのか、どこに向かっているのかもわかりません。ですから、航空自衛隊は戦闘機を「緊急発進」させ、その飛行機がどんな飛行機なのかを確認し、必要な対応を行っています。





## 日本の島々を守るために

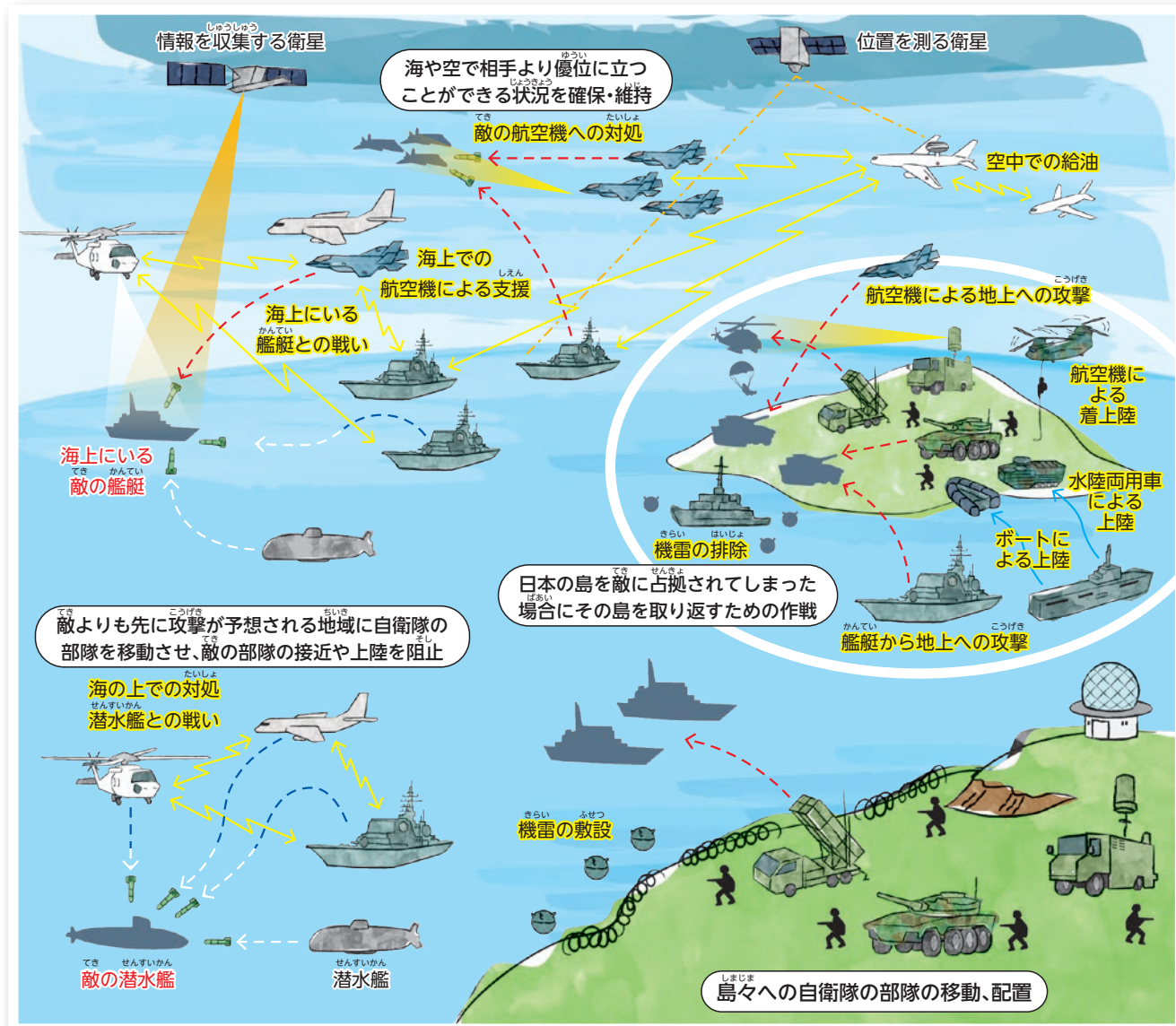
日本が有する多くの島々を守るためには、自衛隊の部隊をきちんと配置しておくこと、そして状況に応じて部隊を速やかに移動させることが必要です。また、普段からの情報収集や警戒監視により、敵からの攻撃の前触れを早期に察知し、航空機や艦艇を使って、空や海で相手より優位に立つことができる状況を確保することが重要です。

事前に敵からの攻撃の前触れを察知した場合には、敵が攻めてくると予想される場所に相手より先に自衛隊の部隊を移動させ、敵の部隊が日本の島に近づいたり、上陸したりすることを阻止することになります。

また、海や空で相手より優位に立つことが困難になった場合でも、敵の部隊が攻撃できる範囲よりも遠くから、ミサイルなどを使って、敵の部隊の接近や上陸を阻止することになります。

それでも万が一日本の島を敵に占拠されてしまった場合には、自衛隊の航空機や艦艇によって島にいる地上の敵を攻撃して制圧した後、陸上自衛隊の部隊を空や海から着陸・上陸させるなど、あらゆる手段で敵から取り返すことになります。

### 島々の防衛のイメージ図





こうした作戦を行うことができるよう、防衛省・自衛隊は九州や沖縄に新しい部隊を配置したり、敵が攻撃できる範囲よりも遠くから対応できる「スタンド・オフ・ミサイル」の整備を行ったり、また、部隊を素早くかつ遠くに輸送できるV-22オスプレイというヘリコプターと飛行機の間のような航空機を導入したりするなど、様々な取組を進めています。



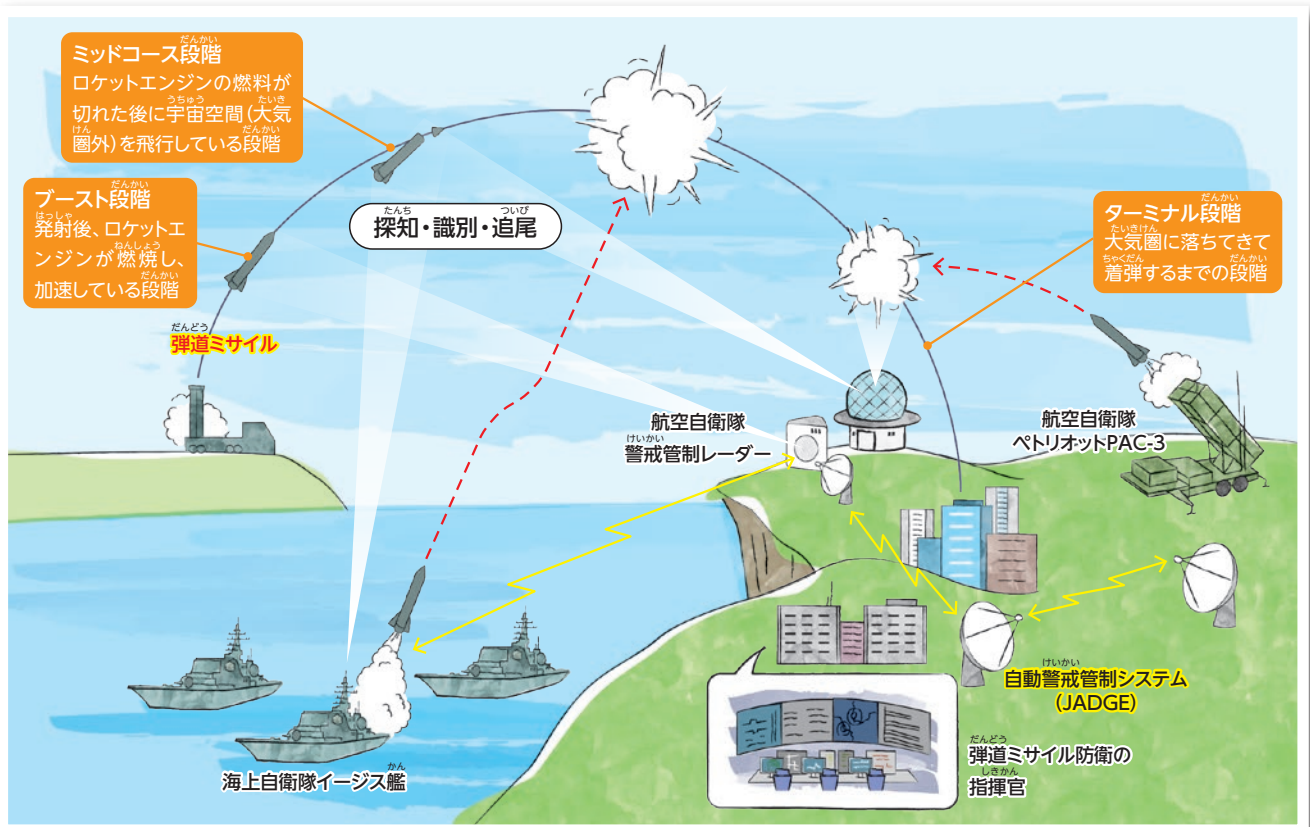
## ミサイル攻撃から守るために

仮に弾道ミサイルで攻撃された場合には、日本を守るために、飛んでくる弾道ミサイルを打ち落とさなければなりません。

弾道ミサイルは発射されると、ロケットエンジンにより加速し、宇宙空間まで高く上がります。ロケットエンジンの燃料が切れた後も、しばらくは宇宙空間を飛び続け、その後宇宙空間から大気圏に落ちてきて、最終的に地上に着弾します。

日本に向けて弾道ミサイルが発射された場合、自衛隊はまず、様々なレーダーを使って、どのようなミサイルがどこを飛んでいるのか、どこに向かっているのかを調べます。そして、高性能なレーダーやミサイルシステムを搭載しているイージス艦という艦艇からミサイルを発射し、宇宙空間を飛んでいる弾道ミサイルを打ち落とします。宇宙空間で打ち落とせなかった場合でも、地上に配備されているPAC-3というミサイルで打ち落とすことで、日本全体を弾道ミサイルから守れるようにしています。

### 弾道ミサイル防衛のイメージ図





日本を防衛するためには、陸海空といった従来の領域にとどまらず、宇宙領域、サイバー領域、電磁波領域といった「新たな領域」にも対応をしていくことが必要です。防衛省・自衛隊はこうした「新たな領域」においても様々な取組を進めています。

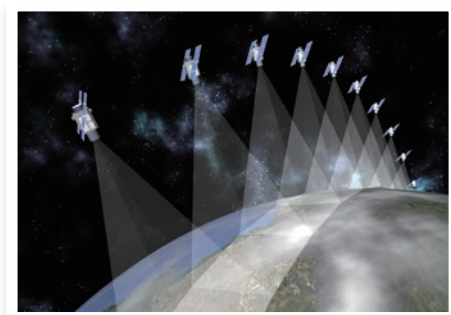
## 宇宙・サイバー・電磁波という「新たな領域」と世界の動き

宇宙空間には、様々な種類の人工衛星が打ち上げられており、天気予報、テレビのBS放送、携帯電話のGPS機能など、日常生活の様々な場面で役立っています。また、インターネットなどの情報通信ネットワークは、わたしたちの生活のあらゆる場面で必要不可欠なものになっています。さらに「電磁波」というと少しなじみが薄い言葉のように思える人もいますが、テレビやラジオの放送や、携帯電話の通信などに使われている電波も電磁波であり、宇宙領域やサイバー領域と同様、わたしたちの日常生活の中に深く入り込んでいます。

このような宇宙・サイバー・電磁波の領域においては、科学技術が急速に発展しわたしたちの生活をますます便利にしている一方、自国の軍事的優位性を確保するため、安全保障上の「新たな領域」として、各国がその能力を急速に開発しています。

### 宇宙

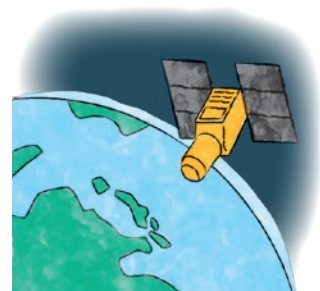
宇宙空間は人工衛星を活用すれば、地球上のあらゆる地域の観測や通信、位置の測定を行うことができます。このため、主要国は、軍事施設の偵察やミサイルなどの発射を探知する衛星をはじめ、宇宙を利用した能力を上げることに力を注いでいます。



小型画像衛星による画像の取得(イメージ)

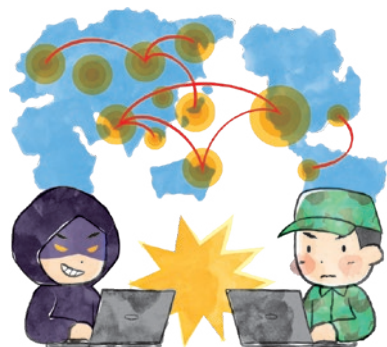
一方、自分の国が軍事的に有利な状態を確保するために、他国が宇宙を利用することを妨げる能力も重視されています。

具体的には、**中国やロシアが衛星を目標としたミサイルを発射したり、衛星を攻撃するための衛星(キラー衛星)を開発している**と指摘されています。このような宇宙空間における脅威の増大が指摘される中、アメリカをはじめ、宇宙空間を「戦闘領域」や「作戦領域」と位置付ける動きが広がっており、**宇宙の安全保障は差し迫った課題**となっています。



### サイバー

インターネットなどの情報通信ネットワーク上の仮想空間のことをサイバー空間と呼びます。防衛の分野においても情報通信ネットワークの重要性が高まる中、国家が関与する高度なサイバー攻撃など、**サイバー空間における脅威は増大**しています。



サイバー攻撃を受けると、**情報が勝手に抜き取られたり、システムの動作が妨害されてしまったり、乗っ取られたりしてしまう可能性もあり、戦車や護衛艦、航空機がうまく動かせなくなるなど、国家の安全保障に重大な影響**が及んでしまうおそれがあります。

アメリカは、中国、ロシア、イラン、北朝鮮が、より積極的にサイバー攻撃を実施するようになってきていると分析しています。また、各国は、軍としてもサイバー攻撃能力を強化しているとみられています。



## 電磁波

電磁波は防衛の分野においても、命令を伝えるための通信機器、敵を発見するためのレーダー、ミサイルの誘導装置などに使われています。現代の作戦では、電磁波を使えなくなると著しく不利になってしまうため、電磁波の領域で優勢を確保することが必要不可欠なものとなっています。

電磁波領域を利用した作戦は「電子戦」と呼ばれますが、アメリカは、電子戦装備を活用して、リビア政府軍からの航空機に対する攻撃を阻止したり、イランの無人機を墜落させたとの指摘もあります。



## 「新たな領域」における自衛隊の取組

### 宇宙

宇宙空間の安定的な利用に対する脅威に対応するため、防衛省・自衛隊は、JAXAなどの関係機関や、アメリカをはじめとする関係国とも連携しながら、宇宙を監視し、正確に状況を認識するための「宇宙状況監視(SSA)」を行う体制の構築をはじめ、様々な取組を進めています。



SSA衛星による宇宙の監視(イメージ)

### サイバー

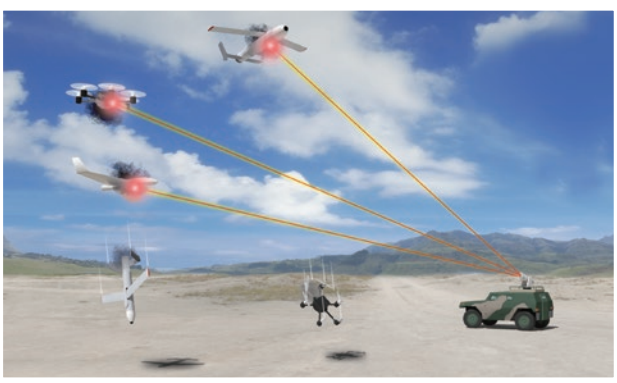
サイバー空間における脅威の増大にも対応できるよう、自衛隊は24時間態勢で通信ネットワークの監視やサイバー攻撃への対処を行っています。さらに、関係国などとも連携しながら、サイバー領域における能力のさらなる強化を進めています。



サイバー防衛隊員

### 電磁波

自衛隊が電磁波を効果的、積極的に利用できるようにするための能力を強化するだけでなく、日本に攻めてこようとする敵が電磁波をうまく使うことができないようにするための能力も強化しています。



レーザーシステム(イメージ)





自衛隊は、大規模な災害が発生した時には、地方公共団体などと連携・協力しながら、被災者の捜索・救助や医療支援、水や食料の提供など、様々な活動を行っています。

## 自衛隊の災害派遣の流れ



自衛隊の災害派遣は、都道府県知事などが自衛隊の災害派遣が必要だとお願いをし、これについて防衛大臣などが自衛隊を派遣するしかないと判断した場合に行うことが原則となっています。

また、災害派遣では人命救助や食事の提供、医療の支援など被災者に対していろんな手助けを行っています。そして日本各地で発生する自然災害から国民の生命と財産を守るため、防衛省・自衛隊は全国各地の駐屯地や基地に、災害が起こればすぐに対応するFAST-Forceと呼ばれる部隊を待機させて、日々災害の発生に備えています。

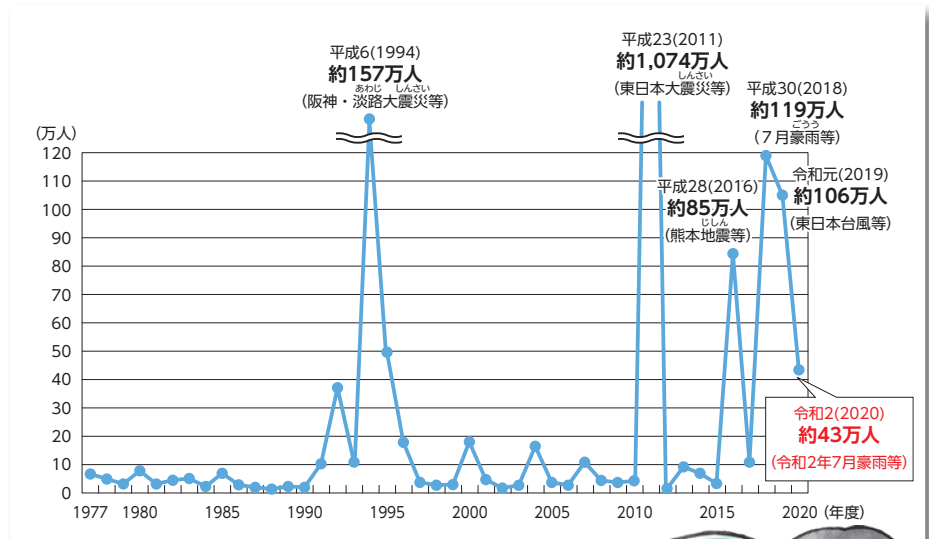
## 最近の自衛隊の災害派遣

最近の日本は2020年の7月豪雨や2019年の東日本台風など災害が多く発生しており、災害派遣の必要性、重要性が増しています。令和2(2020)年度は、延べ約43万人の自衛隊員が災害派遣活動を行いました。災害派遣活動を行った隊員が100万人を超えた年は、記録のある昭和52(1977)年度以降、4回あり、特に一昨年度と昨年度は2年連続で超えました。

また、新型コロナウイルスの感染が日本全国に広がっています。

そのような状況で自衛隊の看護師(看護官)を病院へ派遣したり、離島で発生した救急患者の方をヘリコプターなどで輸送しており、国民のみな様の命と暮らしを守っています。

### 災害派遣活動を行った自衛隊員の数





新型コロナウイルスへの対応



さまざまな災害下での人命救助活動



給食支援(被災者への食事の提供)



入浴支援(被災者へのお風呂の提供)

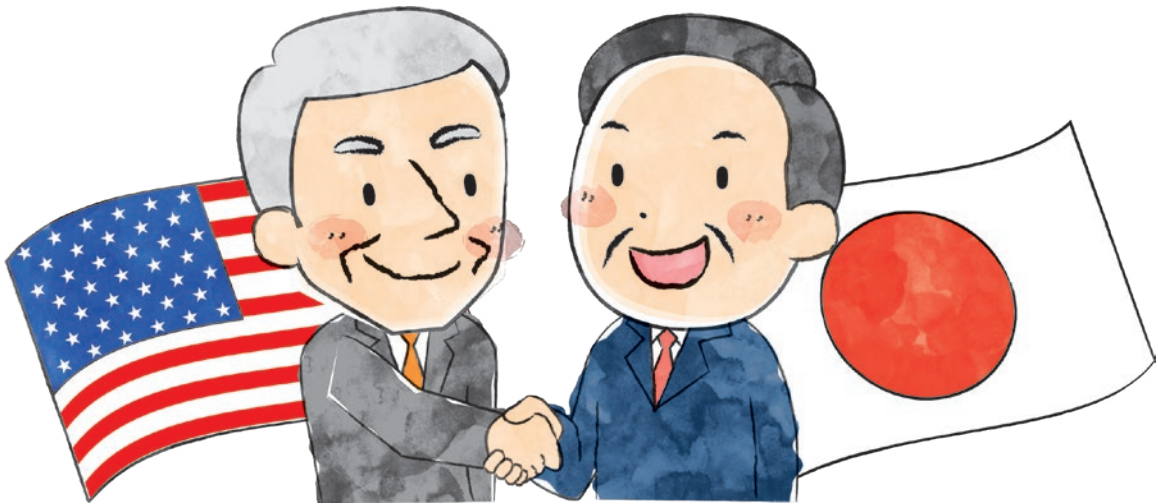


道路の整備(がれき処理など)





日本とアメリカは自由や民主主義といった基本的価値と戦略上の利益を共有する、とても大切な同盟の関係にあります。日米同盟は日本だけでなく、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定、そして繁栄に大きな役割を果たしています。



## なぜ日本はアメリカと同盟を結んでいるの？

国の平和や安全を守るためには、どのような危険な場面にも対応できるようにしなければなりません。

しかし、現在の国際社会においては、どの国も自分たちの力だけで自分の国の安全を守ることは難しくなっています。

そこで、日本は、同じような価値観を持ち、経済面においても関係が深く、また、強大な軍事力を持つアメリカと、日米同盟という強い結びつきを持つことで日本を守ってきました。

日本とアメリカは日米安全保障条約という約束を結んでおり、その中では、日本が攻撃された場合には、日本とアメリカが共同で立ち向かうことが決められています。この約束によって、もしもどこかの国が日本に対して攻撃をしようとしても、その国は自衛隊だけではなく、世界一の軍事力を持つアメリカ軍とも直接対決することを覚悟しなければなりません。相手国から見ると、世界一の軍事力を持つアメリカと戦うと大きなダメージを受けることは明らかなので、日本を攻撃するのはやめておこう、と思いとどまることになるのです。

また、日本の周りには、大きな軍事力を持っている国家が集中し、中には核兵器を持っている国もあります。こうした国々が軍事力をさらに強化したり、軍事活動を活発化させたりしているため、日本の周りの地域はとても不安定になっています。こうした中で、日本にいるアメリカ軍は、日本とアメリカの利益を守るだけではなく、地域の国々に大きな安心をもたらす存在でもあります。日本とアメリカの協力関係はインド太平洋地域の平和と安定にとっても重要な役割を果たしているのです。

さらに、日本とアメリカの協力関係は、インド太平洋地域の中だけにとどまりません。現在の世界には、海洋・宇宙・サイバー空間を安定して使うことに対するリスク、海賊行為、大量破壊兵器や弾道ミサイルの拡散、国際テロなど、一つの国だけで対応することが難しい安全保障に関する問題が数多く存在しています。日本はアメリカと協力して、こうした色々な国に関わる問題を解決するための取組を進めており、日米同盟関係は世界の平和と安定にも貢献しているのです。





## アメリカとどのように協力しているの？

### 宇宙やサイバー領域における協力

日本とアメリカは、宇宙やサイバー領域における様々な取組について情報を交換したり、これからの協力について話し合いをしたりしています。

### ミサイルなど空からの脅威への対応

ミサイルや航空機などの日本に対する空からの脅威に、情報を共有したり、どのように協力して対処するかを事前に話し合ったりすることにより、日本とアメリカが共同で対処する能力を高めています。また、北朝鮮から弾道ミサイルが発射された際には、実際に日米で協力して対処しています。

### 共同訓練・演習

自衛隊とアメリカは普段から色々な共同訓練・演習を行っています。それら訓練などを通じて、それぞれの能力を高めるとともに、お互いの連携を強化させることで、日本とアメリカが共同して対処する力を高めています。



### 情報収集・警戒監視・偵察活動 (ISR 活動)

日米両国の活動の効率や効果を高めるため、地域における情報を収集したり、周りを見張ったりするなど、日本とアメリカで協力して実施しています。

### 海洋安全保障

日本とアメリカは自由で開かれた海の平和と安定を守るため、海洋における監視の情報の共有など、様々な取組を協力して実施しています。

### 後方支援

日本とアメリカは日米物品役務相互提供協定 (ACSA) という約束を結んでいます。この協定により、共同訓練や災害派遣、国連PKOなどの国際平和協力業務、日本が外国から武力攻撃を受けた場合などの様々な状況で、自衛隊とアメリカ軍がお互いに燃料や食料、輸送や施設の利用などを貸し借りできるようになっています。

### 日本における大規模災害への対処のための協力

東日本大震災では、アメリカ軍は最も多い時で人員約1万6,000人、艦船約15隻、航空機約140機によって「トモダチ作戦」を行い、その支援活動は日本の復旧・復興に大きく貢献しました。その後も、日本国内での災害においてどのように日米で共同して対応するかについて話し合ったり、一緒に防災演習などを実施したりしています。

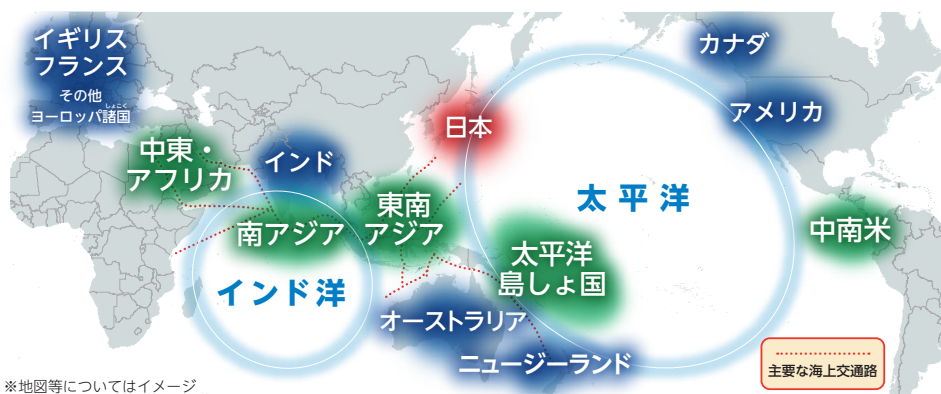


アメリカ陸軍によるトモダチ作戦において



国際社会の力関係はとても速いスピードで複雑に変化しており、もはやどの国も一国だけで自分たちの国を守ることはできません。日本や地域・国際社会の平和や繁栄を守るために、防衛省・自衛隊は、外国の国防省・軍との協力・交流を通じて、様々な取組(防衛協力・交流)を行っています。

### 「自由で開かれたインド太平洋」という考え方



※地図等についてはイメージ



「自由で開かれたインド太平洋」に関する防衛省の取組について9か国語で紹介している資料はこちら



防衛省・自衛隊が取り組む各国との防衛協力・交流についての資料はこちら

国際社会の安定と繁栄の鍵を握るのは、成長著しい『アジア』と潜在力あふれる『アフリカ』の「2つの大陸」、また、自由で開かれた『太平洋』と『インド洋』の「2つの大洋」の交わりにより生まれるダイナミズム(活力)です。

アジアとアフリカのつながりを向上させ、インド太平洋地域全体の安定と繁栄を促進させるためには、インド太平洋地域を、ルールに基づき、自由で開かれたものにする必要があります。

日本は、このような考え方に基づき「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンをかかげています。日本が提唱したこの考え方は、アメリカ、オーストラリア、東南アジア諸国、インド、ヨーロッパ諸国にまで広がり、多くの国から賛同や支持を得ています。

防衛省・自衛隊は、以下の三つの方針で「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に向けた取組を行っています。

- 1 防衛協力・交流を活用し、日本の生活を支える商船、タンカーなどが安心して海上交通路を航行し続けることができるようにすること
- 2 国同士がお互いの理解を深め、信頼関係を築きながら、不測の事態(予測できないような衝突など)を回避すること
- 3 関係各国と協力し、地域の平和と安定に貢献すること

主要な海上交通路が通っていることやエネルギー安全保障の観点から、東南アジア、南アジア、太平洋島しょ国、中東・アフリカ、中南米の国々に対しては、次のページで紹介する防衛協力・交流の様々なツールを活用しながら、協力を強化することとしています。

また、こうした取組は、同盟国であるアメリカや、オーストラリア、インド、イギリス、フランス、ドイツなどのヨーロッパ諸国、カナダ、ニュージーランドといった「自由で開かれたインド太平洋」の考え方を共有し、インド太平洋地域につながりを持つ多くの国々との間で協力して行っています。







## 防衛協力・交流のツール

### 人的な協力・交流

防衛大臣や陸海空各自衛隊のトップである幕僚長などの会談、実務者による協議や国際会議への参加を通じて、外国の国防省・軍との間でお互いの理解を深め、信頼関係を築くとともに、日本の考え方を諸外国や国際社会に向けて発信しています。



フランス海軍参謀長を防衛省で出迎える海上幕僚長



アメリカ、インド、オーストラリアとの共同訓練「マラパール2020」

### 艦艇・航空機や部隊を活用した協力・交流

艦艇や航空機のお互いの国への訪問や、他国との訓練、部隊同士の交流などを通して、信頼を高め合うとともに、相手国の部隊と連携する力を高め、自衛隊の能力の向上や相手国との関係の強化をすすめています。

### 能力構築支援

自衛隊の経験や優れた能力・技術を活かして、東南アジア、南アジア、太平洋島しょ国などの国々などに対し、安全保障・防衛分野における人材の育成・教育などを行い、各国の軍隊が国際社会の平和や地域の安定のための役割をきちんと果たすことができるよう支援しています。



東ティモールに対する能力構築支援(車両整備に関する教育)



日本からフィリピンに移転された海自練習機TC-90(後ろ)とフィリピン軍兵士

### 防衛装備・技術協力

防衛装備品(自衛隊が使う車両や航空機など)の外国への輸出や提供、外国と共同での防衛装備品の開発・生産などを推進しています。こうした取組は、協力の相手となる国やその周辺地域の平和と安定だけでなく、自衛隊のための防衛装備品を生産する日本企業の製造ラインや技術の維持にも役立つものです。

# 働く自衛官の声



## 電子戦部隊に勤務して

第301 電子戦中隊 (熊本県熊本市)  
通信陸曹 3等陸曹

くわばら りょうへい  
桑原 良平



えんちようかんりよう  
「延長完了!」

わたしは、平成28年に高校を卒業後、陸上自衛隊に入隊して以来、通信科の隊員として駐屯地内の電話やパソコンの設置や、自衛隊内の通信を確保する部隊で勤務していました。そこで身に付けてきた通信やシステムに関する知識・技術を活かし、次は、宇宙・サイバー・電磁波の分野で活躍したいなと思い、令和3年3月、念願であった電子戦部隊に所属することができました。宇宙・サイバー・電磁波と聞くとカッコいいですね。

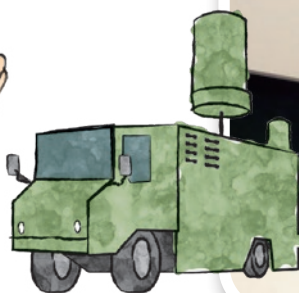
現代の戦い方は、陸・海・空に加え、宇宙・サイバー・電磁波の各領域において優位に立つことが重要とされています。

第301 電子戦中隊は、その電磁波領域の専門部隊として、相手の電波の利用や効果を妨げつつ、味方の電磁波の利用や効果を確保して戦う部隊です。今年生まれたばかりの部隊ですが、一丸となって取り組んでいます。

みなさまをお守りする自衛官という職業と、このような最先端の電子戦部隊のメンバーとして活躍できることに誇りを持ちながら、いち早く活躍できるように一所懸命に教育訓練に励んでいきます。



さんむ  
勤務場所において調整する筆者 (健軍駐屯地)



## これまでの勤務を通して 学んだこと

東北方面特科連隊第2大隊第4中隊(岩手県滝沢市)  
前進観測班長 2等陸尉

執行 麻鈴

わたしは、防衛大学校を卒業した後、幹部候補生学校で学び、岩手県にある東北方面特科連隊で勤務しています。最初は全く自衛隊を知らずに防衛大学校に入学したわたしでしたが、4年間の学校生活と幹部候補生学校での教育訓練を通して、厳しい時に自ら進んで行動できる人になりたいと思うようになりました。その中で一番苦労したのは、人前に立って自分の意見を言うということです。これって、すごく勇気が必要ですよ？ 今のわたしは人前で話したり指示を出す機会が多く、どう話せば自分の言いたいことが伝わるかなとか、聞いている人はわかりやすいかなとか、悩みながらも少しずつ自分の意見が言えるようになったと思います。部隊で勤務するようになってからは、仲間と共に日々訓練に励んでいます。わたしが配属された野戦特科部隊は、「FH70」という大きな火砲を扱う部隊です。これを動かすには、チームワークが欠かせません。わたしは、リーダーとしてチームワークを深めるためにどんな訓練をやったら良いのかということについていつも考えています。仲間と共に試行錯誤を繰り返しながら訓練をして、成果を出すことができた時はとてもやりがいを感じます。

最後に、わたしたちには、東日本大震災のような大きな災害が起きた時に、困っている人々を助けることから、国を守ることまで幅広い任務があります。日々の訓練の積み重ねが、そういった任務をやり遂げることに繋がるという意識を持って勤務しています。将来は、日本の平和だけでなく、PKOなどの世界平和を守ることに貢献していきたいと思っています。



火砲の砲弾を誘導する筆者



わたしの勤務場所(岩手県滝沢市、岩手駐屯地)



# 働く自衛官の声



## イージス艦「みょうこう」 艦長として勤務して

第3護衛隊群第3護衛隊  
護衛艦みょうこう艦長(京都府舞鶴市) 1等海佐

大谷 三穂



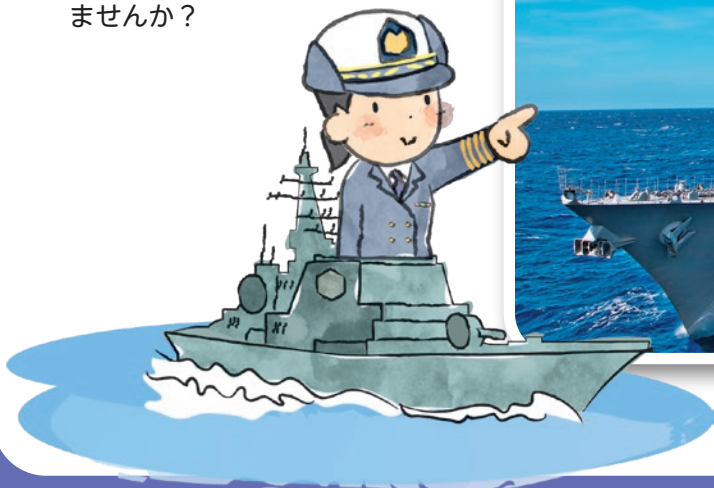
女性初のイージス艦艦長として着任した筆者

わたしは、イージス艦の「みょうこう」艦長として勤務しており、プライベートでは一児の母でもあります。わたしは、「日本の役に立ちたい」との強い思いから防衛大学校に入校し、その後海上自衛隊に入隊しました。入隊してからは、艦艇に乗り組んだり、自衛官を教育する教官などを経験し、希望していた艦長になりました。これまで練習艦「しまゆき」艦長、護衛艦「やまざり」艦長となり、「みょうこう」は3隻目の艦長となります。約300名の乗員の命を預かるという責任はとても重く、何隻艦長を務めても変わることはありません。

しかし、艦長という仕事は、責任の重さだけでなく、やりがいや誇りも言い表すことのできない大きなものです。特に、「みょうこう」では、日本をねらう弾道ミサイルがいつ発射されても日本を守り抜くという高い士気のもと、精鋭ぞろいの頼もしいクルーたちと共に、日夜高い緊張感と集中力を持って任務にあたっています。

わたしは女性自衛官初の練習艦、護衛艦、イージス艦の艦長となりましたが、自衛隊の職場環境に男女の差はあまり感じていません。今後はますます女性自衛官の活躍の場が増えることでしょう。

ぜひ海上自衛隊で勤務してみませんか？



洋上を航海するイージス艦「みょうこう」





# 保全監査隊セキュリティ対策 班員としての勤務

## 保全監査隊 セキュリティ対策班員

わたしは、海上自衛隊のサイバーセキュリティを担当する保全監査隊で勤務しています。子供の頃、「将来は、人に役立つ仕事がしたい」と思っていました。中学生の時に、全国で広く活躍できる自衛隊のことを知り入隊を決意しました。

保全監査隊では、サイバー空間を監視して、サイバー攻撃やコンピュータウイルス感染の予防と対処を行っています。サイバー攻撃を受けたならば速やかに状況を把握し、被害を抑え、地上の施設はもちろん、護衛艦や潜水艦、航空機などすべてのシステムやネットワークを隊員全員が不安なく使用できるようにすることがわたしの任務です。

ITの発展と普及に伴い、わたしたちの生活にITは必要不可欠なものとなりましたが、それとともにサイバー攻撃の手法も急速に進化しており、サイバー空間は悪意ある者によって脅威にさらされています。わたしたちは、日々最新の技術を学んで、安全なシステムとネットワークを守り続けています。簡単なことではあ



マルウェア解析をしている様子

りませんが、向上心の高い専門的なスキルを持ったチームで日々スキルを磨きながら任務にあたっており、充実した日々を過ごしています。

みなさんと一緒に仕事できることを楽しみにしています。



サイバー攻撃等対処をしている様子



# 働く自衛官の声



## 戦闘機パイロット という仕事

第3航空団飛行群第302飛行隊(青森県三沢市)  
3等空佐

おの ゆうじろう  
小野 裕次郎

わたしは高校生まですでに地元の鹿児島県で過ごし、パイロットを育てる航空学生という学校がある航空自衛隊に入隊しました。その後、「F-4E J改」という戦闘機のパイロットとして沖縄県的那覇基地と茨城県の百里基地で過ごし、今は最新鋭の戦闘機「F-35A」のパイロットとして青森県の三沢基地の第302飛行隊というところで勤務しています。

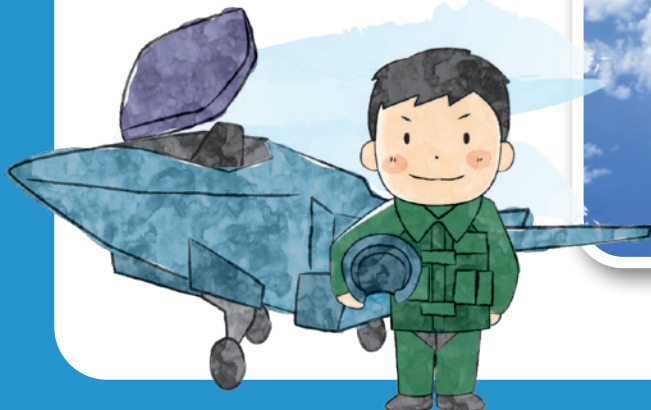
ところで、みなさんが学校で勉強したり友達と遊んだりしている時、外国の飛行機などが、ほぼ毎日のように日本の周りに飛んできていることを知っていますか？ その中で、万が一日本を攻撃しようとしている飛行機が飛んできた場合に、みなさんを守るため、立ち向かっていくのは誰だと思えますか？ 答えは「戦闘機パイロット」です。わたしたち戦闘機パイロットは、外国の飛行機などが許可なく日本の空に入らないようにしたり、日本への攻撃からみなさんを守ったりするために、戦闘機で大空を飛んでいます。戦闘機を操縦して国を守っていることが、わたしたちの誇りであり、この仕事の魅力でもあります。戦闘機パイロットになるための勉強や練習はたくさんありますが、男の子も女の子も戦闘機に乗りたいという強い気持ちを持っていると、必ず戦闘機パイロットになれると思います。みなさんが、戦闘機を操縦しながら日本を守る戦闘機パイロットの仲間になってくれることを、楽しみに待っています。



F-35Aに乗り込む筆者



日本の空を守るF-35A戦闘機(右側)とF-15戦闘機(左側)





# アメリカ宇宙コマンドでの 連絡官勤務

アメリカ宇宙コマンド MSC(多国間宇宙調整所)  
連絡官(アメリカ カリフォルニア州) 2等空佐

窪田 拓朗



わたしはこれまで主に航空自衛隊の戦闘機を管制する仕事をしてきましたが、今は、宇宙に関する仕事をしています。自衛隊では、海外で外国の人とやりとりする仕事をする人を連絡官と言いますが、わたしもその一人として、アメリカで働いています。

みなさんが世界中の誰かと電話をしたり、色々な国のテレビ番組を見たり、カーナビを使うためには、宇宙にある人工衛星が必要です。人工衛星は生活にすごく便利なので、たくさんの国が色々な人工衛星をどんどん打ち上げています。ただし、宇宙には、ロケットを打ち上げた時にできる破片もありますし、人工衛星同士がぶつかる危険もありますので、誰かが監視して守ってあげる必要があります。しかし、宇宙は遠いし国境もないので、世界の国々が協力して宇宙の平和と安定を守ることが大切です。わたしはその中心的な役割を果たすアメリカ軍の基地にある宇宙コマンドというところで、イギリスやフランス、ドイツといった世界の国々から同じように派遣されている連絡官と一緒に仕事をしています。

アメリカの宇宙部隊施設にて



打ち上げられたデルタ4ロケットを見つめる  
未来の宇宙飛行士？

宇宙という分野は、航空自衛隊にとっては新しい分野なので、アメリカをはじめ、色々な国から学ぶことがたくさんあります。もちろん毎日英語で仕事をしていますが、日本では体験できない環境の中で、毎日ワクワクした気持ちで働いています。みなさんも大きくなったら、世界を舞台に、宇宙に関する仕事を一緒にしませんか！





防衛省・自衛隊  
MINISTRY OF DEFENSE